

# 南蛮峠山行記録

平成23年2月27日(日): 晴れのち曇り

笠原正雄単独



三ノ峠山を振り返る

10:05 市営牧場牛舎前除雪最終点発

カンジキを忘れてきて、途中まで取りに戻り歩き出しが遅くなる。単独者2名先行。途中で追いつき、追越す。大汗をかく。

10:55~11:10 友遊小屋に入り上着を脱ぎストーブにかざして汗を乾かす。単独者1名来る。他に何人かが出入りする。

11:15 三ノ峠山頂。10数名の若者男女が雪テーブルを作っていた。先へ下る。

11:25 ここまで壺足で来たが、カンジキを履く。小屋で休んでいる間に追越されたもう一人の単独若者に追いつく。スノーシュー歩きで、ボードを背負っている。

11:40 分岐、直進は萱峠だがトレースは無い。右へスノーシューが進んでいる。それに乗る。

12:00 道の上を進むが雪斜面が混じってくる。トレースはここ迄で、以後はノントレース。

12:15 斜面上がりとなる手前で、雪は腐っているので無くとも良いが、念のためピッケルを持つ。

12:35 南蛮峠。広い道に出る。道から南蛮山方向の小高い丘に上がる。

12:45~13:25 標高点483に上がりここまでとする。自宅からメールが届く。ところが通話圏域の境界で返信出来ない。右往左往してようやく通話が出来た。先方に南蛮山とH567が見えている。その左は竹之高地の沢となっている。対岸に萱峠方向から猿倉岳へ稜線が続く。風も無く穏やかである。日差しを背にして三ノ峠山を見て腰をおろし、ランチ。長岡市街も見えている。

14:50 のぼり返して三ノ峠山頂。男が1人居た。ちょっと小屋で腰を下ろし、カンジキのまま下る。曇りとなった。

15:50 駐車地点に戻る。

【後記】もう少し先までと思っていたが、カンジキ忘れに加えて、分岐以降、カンジキでもズボズボで時間と体力を労した。久しぶりの単独行であったが、それなりに充実感があった。